

愛道

あいどう



トピックス

足羽福祉会 創立50周年事業
キャッチフレーズ決まる

[取組レポート] 足羽学園・あすわ地域生活支援センター・足羽利生苑

第4回 足羽川ふれあいマラソン

～ボランティアカメラマンによるスナップ集～



平成28年3月20日、
今回で第4回となった足羽川ふれあいマラソンは、
おかげさまで無事に終えることができました。
地域の皆様、協賛各社、多くのボランティアの皆様の
ご支援・ご協力に感謝いたします。



兄弟による選手宣誓 (弟さんが誕生日)



ボランティアスタッフによるランナー受付



利用者の方が製作したマットや特産品・マラソングッズの販売



参加賞は一般がTシャツ
親子はペアのリストバンド



恒例のぜんざいサービス



日本競輪選手会福井支部 競輪選手による先導





松田名誉大会長
あいさつ



ユティック陸上競技部のワンポイントレッスン

足羽福祉会創立50周年事業

キャッチフレーズ 決まる!!



感謝を胸に 「共に生きる」これからも

来年度、創立50周年を迎えるにあたり、「50周年記念事業検討準備委員会」にてキャッチフレーズの選定を行い、職員から寄せられた候補案を協議した結果、晴れて上記のように決定いたしました。

目次 もくじ

- 2 第4回足羽川ふれあいマラソン
- 4 余暇から将来のステップへ … 足羽学園
- 6 ぼくたちの歩み!! … あすわ地域生活支援センター
- 8 ちくちくことばよりふわふわことば
～ひとり歩き見守り活動に参加して～ … 足羽利生苑
- 10 いつもありがとうございます ～ボランティアさんのご紹介～
- 12 平成28年度足羽福祉会新任職員紹介
- 14 平成27年度決算報告・新役員紹介
- 15 愛のささえ
- 16 足羽川ふれあいマラソン協賛・ボランティアご芳名一覧



「表紙について」

暑い日差しがふりそそぐ中、みんな海に出掛けました。みなさん波にびっくりした様子でしたが、海は冷たくて気持ちよかったです。またみんなで行きましょね。
(あすわ地域生活支援センター 出口)



装飾活動で作った装飾

余暇から将来のステップへ

今までの余暇活動は、1つの活動を利用者の方みんなで行っていましたが、足羽学園に入所されている方の年齢層（5歳～17歳）が幅広く、どうしても高学年の利用者の方が主体になってしまうことなど多くの課題がありました。そこで、すべての利用者の方に充実した余暇活動ができるようにグループ分けをして活動を始めました。

今回はその活動内容とグループ化をしたことにより、利用者の方にどのような変化があったのかをご紹介します。

取り組みについて

足羽学園では、週末日中活動として「グループ余暇」という名前で企画し実施してきました。その目的・ねらいとして次の3つのことがあります。

① 利用者の方に対して、落ち着いて有意義な時間を過ごしていただくために計画的に実施することで、利用者の方の不穏を少しでも解消し過ぎていただく。

② 園内の利用者の方を多種（障がい・年齢）の視点からグループ分けし、活動することによって、家庭に近い環境の中で、安心感をもち、職員との信頼関係が築けるようにする。

③ グループ余暇活動を振り返ることで、将来的な小ユニット化に向けて「小規模ケア」のメリット・デメリットについて評価する。

活動の始まり

利用者の方はグループ分けボードを見て、自分が今日どんな活動をするか確認します。1グループ4〜6人で構成されており、①未就学〜小学生②中学生③高校生と3グループ編成になっています。活動時間は30分〜1時間です。



グループ分けボードを見て、それぞれの活動へ移動

余暇活動には、カラオケ・軽運動(マット運動・リレーなど)・紙芝居・絵本の読み聞かせ・装飾活動などがあります。活動時間になると職員と一緒にそれぞれの活動場所へ移動して活動します。職員はそれぞれの活動状況や改善すべき点を記録用紙に記入して、今後の活動につなげていきます。



折り紙を切っています。

利用者の方の声

- 余暇の種類が増えてうれしい。
- 人数が少ないからいっぱい遊べる。
- 職員といっぱい話せてうれしい。



ポイ捨て選手権に挑戦中です☆

職員の声

- 少人数で活動することにより、今までと比べ、利用者の方の不穩が少なくなりました。
- 少人数ということで見守りに余裕ができた分、利用者の方とのかかわりが十分に取れるようになりました。
- 週末に近づく、利用者の方が自分から週末のような活動をするか楽しみにされている姿を見て、やりがいをもって取り組むことができています。

足羽学園では、現在19名の利用者の方が入所されています。グループ余暇を始めたころは、自分がしたいグループに名前がないと納得いかず、すねる行動が見られました。しかし、回数を重ねるうちに見通しをもって活動に参加することができるようになりました。活動後「今日何したの?」と利用者の方同士で会話したり、作品を得意げに見せたりする場面が見られ、うれしく思います。また、玄関先に貼ってある作品を保護者の方が見られ「季節が感じられるのを楽しみに学園に来ます」との言葉もいただき、職員の意欲にもつながっています。

今後も利用者の方と共に楽しい余暇活動にしていき、小人数での家庭的な暖かみのある生活環境を整えて、1人ひとりに合った丁寧な支援を目指してまいります。

児童発達支援管理責任者
瀧波 克代



ぼくたちの歩み!!

A兄弟のプロフィール		
	兄	弟
年齢	44歳	41歳
好きなこと	DVD鑑賞、音楽を聴くこと	買い物
やりたいこと	料理	料理、遠方へ外出

別々のグループホームで自立に向けて生活されていたA兄弟は、二人暮らしを長年希望されていました。平成27年12月から、グループホームはばたきのユニットとしてアパートの1室を借りての二人暮らしを始めました。今回は、A兄弟の生活の様子と今後の支援のあり方についてご紹介します。

A兄弟の二人暮らしへの思い

二人暮らしに取り組み以前の話として、もともと弟の方は一人暮らしを希望されていました。しかし、グループホームで生活していく中で、相談したいときに話し相手がいないと不安になるため、兄と一緒にならトラブルがあつたときでも協力し合えるので安心だと、徐々に気持ちも変化していききました。そして、兄にも、今後の目標や希望について話を伺っていくと、弟と一緒に暮らしたいという希望があることがわかりました。

しかし、A兄弟は不安なことがあると感情のコントロールができなくなることであり、気持ちを落ち着かせようと外へ出て気晴らしをしたり、世話人や職員に話を聞いてもらったりすることで不安な気持ちの整理

をしてきました。

ただ、二人が生活していたグループホームでは、休日や時間帯によっては世話人が不在の場合があり、タイムリーに話を聞くことができないときがありました。

二人暮らしまでの歩み

そこで、不安な気持ちを軽減する方法として、携帯電話を取り入れ、二人が話したいときにすぐ担当職員へ連絡が取れるという体制を整えました。

二人は電話やメールを使ってすぐに職員と連絡が取れるようになったという安心感から、徐々に不安な気持ちもなくなり、それまで時折あったトラブルも減っていききました。

情緒面が安定したことで、休まず仕事へ行けるようになり、このころから二人暮

らしに向けて、家事なども今まで以上に積極的に行うようになりました。

二人暮らしを始めて

平成27年12月、いよいよ二人暮らしが始まりました。二人からは静かな環境で過ごせることと、休日には自

転車に乗って出かけたり、部屋でテレビやゲームをしたりと好きな過ごし方を選択できるから楽しいと満足されている声が聞かれました。また、他の利用者の方と一緒に外食されたり、1泊で温泉に行かれたりと楽しまれ



温泉でカラオケ(弟)



兄弟でTVを見て過ごす

ています。

その一方で、新たな課題も見えてきました。二人が自由に生活できるようになったことで、生活音や夜間の声が大きいと近隣住民の方から指摘を受けることがありました。二人にはアパートで生活する上でのマナーを伝えながら、これからも地域住



自転車外出(兄)

民として生活できるよう支援しています。

利用者の方が望む生活のために…

今後も兄弟や家族などでの生活、または一人暮らしを希望される利用者の方も増えてくることを考えられます。

利用者の方の希望する生活スタイルを尊重し、それが叶えられるようにしていくことがますます求められてくると思います。

職員が利用者の方の生活を決めるのではなく、本人が希望する暮らしを実現できるようにするにはどのような支



家事をしている様子(兄)

援が必要なのかを考えながら支援をしていくことが大切だと思っています。

地域生活を続けていく上で、これから先も経験したことがないようなさまざまな課題が出てくるとは思いますが、くじけることなく課題解決のために私たち支援員は今後も二人を支えていきたいと思っています。

生活支援員

主任 木下 晋一





地域の子どもたちのイラスト

ちくちくことばより ふわふわことば ひとり歩き見守り活動に参加して



ひとり歩き見守り隊は
認知症サポーター
キャラバン活動の
一環です。
caravanmate.com

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気によるもので、85歳以上では4人に1人はその症状があるといわれています。

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったりして、脳の司令塔の働きに不都合が生じ、さまざまな障がいが起こり、生活する上で支障が継続している状態を指します。

地域ぐるみで認知症の方を支援する取り組みが進む中、足羽利生苑地域支援部が六条地区ひとり歩き見守り活動事業に参加・協力した様子をお伝えします。

3月19日福井市六条地区

発見・気づきのポイント

- ☑ ちぐはぐな服装や履物
- ☑ 不自然な時間帯に歩いている
- ☑ 道の真ん中を歩いていて危険
- ☑ 道端に座り込んでいる
- ☑ 道路を行ったり来たり困っている様子

3月19日福井市六条地区内で認知症の方への声かけ体験を通して適切な対応を学ぶ模擬訓練を行いました。

地域の方、介護サービス事業者の方、市社協や地区外の方、総勢約110名の参加がありました。

訓練に先立ち福井南警察署生活安全課長より、行方不明者の発見保護には市民の方の方が大切だとのお話がありました。

ポイント教えて！



一緒に行きましょうか？

3つの「ない」

- ① 驚かせない
- ② 急がせない
- ③ 自尊心を傷つけない

訓練ではまず介護サービス事業所の職員によるミニ講座を行い、認知症の方に接するときの3つの「ない」、7つのポイントについて寸劇を交えて説明しました。

具体的な対応の7つのポイント

1. まずは見守る
2. 余裕を持って対応する
3. 声をかけるときは一人で
4. 後ろから声をかけない
5. 相手に目線を合わせてやさしい口調で
6. おだやかに、はっきりした話しかたで
7. 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する

次に服装や声かけされたときの反応などを工夫しながら認知症の人に扮して、いろいろなパターンを想定しながら六条地区のそれぞれのポイントを歩きました。

参加者の方はミニ講座で

学んだ対応のポイントを思い出しながら、声かけをしてい

やってみよう



やじるしを目安に体験しました



ちくちくことばより
ふわふわことばで...

声かけ役を体験しました。
3つの「ない」と7つのポイントに
気をつけて声かけしました。
その人の気持ちになって接することが
大事だと思いました。



顔を見てゆっくりと...おだやかに

認知症の方役をしました。
後ろから声をかけられたり、
肩に触れると怖かったです。
方言で話してくれると安心できました。
何よりも「さりげなく自然に」が
一番と実感しました。

足羽利生苑 地域支援部
錦織 郁裕

認知症の方とかかわる際に注意すべき点をわかりやすく伝えており、模擬訓練の際にはその内容を意識して取り組む姿に地域のたくましさを感じました。こういった取り組みの継続によって、地域のみなさんの認知症に対する理解や対応力が培われていくのだと肌で感じる事ができました。

私たち足羽福祉会も地域の二員として、皆さんが安心して過ごせる地域づくりに貢献できればと思っています。

今回学んだことを活かし、地域全体の福祉力の向上につながる地域支援をしていきたいです。



あすわ地域生活
支援センター

川瀬真一様

お寿司屋さんの出張料理。今回は
目の前でおいしい天ぷらを揚げて
くださっています。



家接様(上写真左のお二人)は美山町東天田にお住まいで、多くの利用
者の方と顔見知りのため、本当の家族のように接してくださっています。



グループホーム美山

いえつく
家接忠・加津代様ご夫妻



足羽更生園

散髪ボランティア
深草祐二様

永年にわたり、利用者の方の特性を理解した
「気遣い、心遣いの理髪」を提供してくださって
います。

ふれあい祭りの ボランティア募集について

9月4日(日)に足羽学園・足羽更生園ふれあい祭りを開催いたします。
法人創立50周年の前年祭として、49年分の感謝を
こめたさまざまな企画を準備しています。是非ご協
力下さい。

【お問い合わせ】
足羽学園・足羽更生園 ボランティア係
TEL 0776-41-3120

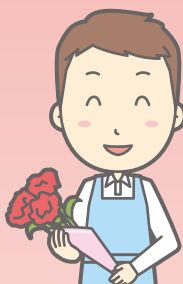
日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

夢の貯金箱



日本財団の「夢の貯金箱」の趣旨に賛同し、
愛全園内の自動販売機3台を社会貢献自動
販売機「夢の貯金箱」に切り替えました。
これにより、飲み物を1本買うごとに10円が
社会貢献プロジェクトに寄付されます。
設置にあたり、日本財団笹川会長より感謝状
もいただきました。





いつもありがとうございます



日ごろ、足羽福祉会を支えてくださっているたくさんのボランティアの皆様ありがとうございます。
感謝の意味を込めて今回はその中から何名かの方をご紹介します。



愛全園

字てがみボランティア 西尾聖子様

週に一度でも輪になって字てがみで時間を共有するのが楽しみの一つです。

※字てがみ…手書きの文字の良さと、いろいろな言葉で
作風が広がります。



足羽利生苑



オカリナ ポルテ

やさしい音色と懐かしいメロディで癒してくださいませ。



AOB

美しい歌声で伸びやかなコーラスを聞かせてくださいませ。

門松作成

年に1度の大事な！
きりっと新しい気持ちになります。



習字 ボランティア

筆さばきもあざやか。
きめこまやかに指導していただいています。



熊本地震救援募金にご協力ありがとうございました
ごさいました
平成28年5月、足羽福祉会では同年4月に起きた熊本地震の災害援助を目的とした募金を募り、各拠点に募金箱を置くなどした結果、法人全体で156,082円の募金が集まりました。
6月3日、当法人の高村理事長が福井県共同募金会を訪れ、高島善広専務理事に募金をお渡しいたしました。今後も社会福祉法人としてさまざまな支援を行っていきたくと考えています。

平成27年度社会福祉法人足羽福祉会の財務諸表・新役員名簿を公開します。

貸借対照表 (平成28年3月31日現在)

科 目		金 額(千円)	科 目		金 額(千円)
資 産 の 部	流動資産	740,687	負 債 の 部	流動負債	303,206
	固定資産	3,554,388		固定負債	340,680
	基本財産	2,568,263		負債の部 合計	
	その他の固定資産	986,126	純 資 産 の 部	基本金	155,158
				国庫補助金等特別積立金	912,269
		その他の積立金		478,245	
		次期繰越活動増減差額		2,105,517	
		(うち当期活動増減差額)		(149,893)	
資産の部 合計		4,295,076	純資産の部 合計		3,651,189
			負債及び純資産の部 合計		4,295,076

事業活動計算書 自平成27年4月1日 至平成28年3月31日

科 目	金 額(千円)
サービス活動収益計	2,667,475
サービス活動費用計	2,526,326
サービス活動増減差額	141,150
サービス活動外収益計	12,865
サービス活動外費用計	4,364
サービス活動外増減差額	8,501
経常増減差額	149,651
特別収益計	808
特別費用計	565
特別増減差額	242
当期活動増減差額	149,893
前期繰越活動増減差額	2,069,624
当期末繰越活動増減差額	2,219,517
その他の積立金取崩額	13,000
その他の積立金積立額	127,000
次期繰越活動増減差額	2,105,517

新役員名簿 任期 平成28年5月1日～平成30年4月30日

理事・評議員	高村 昌裕	理事長
理事・評議員	滝波 正興	常務理事
理事・評議員	小酒井 好信	弁護士
理事・評議員	大橋 博和	医師、病院理事長
理事・評議員	柳沢 全之	公民館館長
理事・評議員	郡谷 いさを	ボランティア団体委員長
理事・評議員	古市 裕彦	学識経験者
理事・評議員	今村 辰和	市議会議員
理事・評議員	吉田 真士	新聞社社長
理事・評議員	宮本 亘	公民館館長
監事	吉田 武彦	学識経験者
監事	豊島 雅恵	学識経験者
評議員	村田 忠一	地区社会福祉協議会会長
評議員	富田 長信	地区社会福祉協議会副会長
評議員	川端 信雄	地区社会福祉協議会顧問
評議員	村田 嘉孝	地区社会福祉協議会会長
評議員	三崎 裕二	地区社会福祉協議会会長
評議員	渡辺 本爾	地区社会福祉協議会会長
評議員	朝倉 乗恵	地区社会福祉協議会会長
評議員	家接 忠	地区社会福祉協議会会長
評議員	竹川 雅裕	当法人保護者会会長
評議員	石橋 俊人	当法人保護者会会長
評議員	不動堂 幸夫	当法人家族会会長
評議員	笠島 正則	当法人家族会会長
評議員	前田 甚作	当法人家族会会長
評議員	西村 元秀	当法人家族会会長

資金収支計算書 自平成27年4月1日 至平成28年3月31日

科 目	金 額(千円)
事業活動収入計	2,680,232
事業活動支出計	2,358,253
事業活動資金収支差額	321,978
施設整備等収入計	432
施設整備等支出計	129,753
施設整備等資金収支差額	△129,321
その他の活動収入計	21,681
その他の活動支出計	147,715
その他の活動資金収支差額	△126,034
当期資金収支差額合計	66,623
前期末支払資金残高	577,757
当期末支払資金残高	644,381

当法人のホームページでも公開していますのでご覧ください。

URL : <http://www.asuwafukushikai.jp/>

